

平成29年度(2017年度)

管理事業名	山田ふれあい文化センター事業			総合計画の体系	第2章 第1節	市民自治が育む自立のまちづくり 多様なコミュニティ活動の充実による住みよいまちづくり		
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 20	山田ふれあい文化センター費	
部局名	市民部	予算執行所属		市民自治推進室				
予算大事業名	山田ふれあい文化センター事業							
事業の目的と概要		上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名						
<p>事業の目的と概要</p> <p>市民相互の交流、ふれあい、市民の文化の振興及び市民の福祉の向上を図ることを目的とし、その目的を達成するために指定管理者制度を導入し、施設の管理運営を行っています。</p>								

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	成果指標の定義
施設利用者数	人	69,546	65,930	68,589	貸出施設の利用者数
施設利用率	%	61.1	58.8	59.5	貸出施設の利用率
成果の説明	<p>利用者数の増加及び利用率の上昇は、指定管理者による多様な自主事業の開催や積極的な情報発信の取組み並びにメイシアター改修工事による同施設の利用停止が影響しています。</p> <p>成果の目標としては、施設利用者数及び利用率のいずれも、前年度実績を上回ることを目標としています。</p>				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	7,712	7,876	7,458	△418
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	5	132	5	△126
経常収入 小計(a)	7,717	8,008	7,464	△544
給与関係費	1,522	2,959	2,823	△136
物件費	50,308	50,453	50,826	373
維持補修費	1,642	1,057	1,908	851
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	4	6	15	9
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	19,832	19,832	19,832	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	122	247	219	△28
退職手当引当金繰入額	△156	1,629	△93	△1,722
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	73,273	76,183	75,530	△652
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△65,556	△68,175	△68,067	108
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△65,556	△68,175	△68,067	108
一般財源充当額	46,058	46,851	48,600	1,749
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△19,497	△21,324	△19,467	1,857

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常収入 その他	通信カラオケ機器情報使用料126千円の減
物件費	指定管理委託料等373千円の増
維持補修費	電動式移動観覧席経年劣化部品交換による修繕料851千円の増

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	7,717	8,008	7,464	△544
行政サービス活動支出	53,776	54,859	56,064	1,205
行政サービス活動収支差額	△46,058	△46,851	△48,600	△1,749
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△46,058	△46,851	△48,600	△1,749
一般財源充当額	46,058	46,851	48,600	1,749
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
開所日1日あたりのコスト	平成27年度	346 日	211,773 円	1日あたり218,929円のコストがかかっています。
	平成28年度	345 日	220,819 円	
	平成29年度	345 日	218,929 円	
利用者1人あたりのコスト	平成27年度	69,546 人	1,054 円	利用者1人あたり1,101円のコストがかかっています。
	平成28年度	65,930 人	1,156 円	
	平成29年度	68,589 人	1,101 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	247	219	△28
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	247	219	△28
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	1,569,554	1,549,796	△19,758	固定負債	2,796	2,458	△337
土地	1,053,640	1,053,640	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	515,914	496,156	△19,758	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	2,796	2,458	△337
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	3,043	2,678	△365
土地	-	-	-	純資産	1,567,367	1,547,900	△19,467
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	856	782	△73	純資産の部合計	1,567,367	1,547,900	△19,467
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-	負債及び純資産の部合計	1,570,410	1,550,578	△19,832
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	1,570,410	1,550,578	△19,832				

Ⅲ 財務構造分析

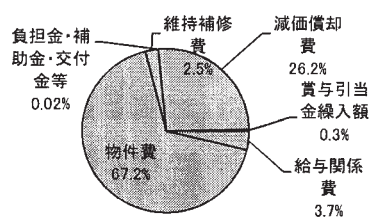
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用		非常勤	臨時雇用員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
	月平均	人				
給与関係費等	2,950	千円				2,950
内、時間外勤務手当	226	千円				

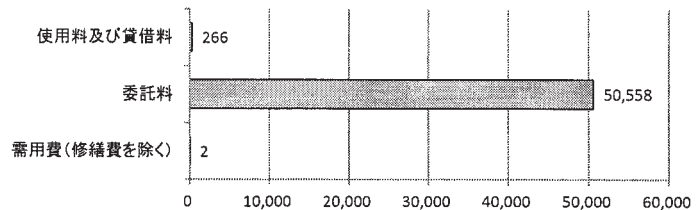
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建築・工作物	建物減価償却により19,758千円の減
重要物品	重要物品償却により73千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立山田ふれあい文化センター
取得年月日	平成5年(1993年)5月23日
建物・工作物の取得価額	986,820 千円
建物・工作物の減価償却累計額	490,664 千円
利用料金収入	7,458 千円

▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)			差 B-A
		平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	
施設維持補修費比率		0.2	0.1	0.2	0.1
施設老朽化比率		45.7	47.7	49.7	2.0
受益者負担比率		10.5	10.3	9.9	△0.4
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		85.6	85.4	86.7	1.3
経常費用対公共資産比率		7.4	7.7	7.7	0.0

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用につきましては、コストの67.2%を物件費が占めています。その物件費のうち、約99%が施設運営に係る委託料となっています。物件費に次いで主なもの減価償却費が26.2%となっています。
また、市保有施設全体の老朽化比率は前年度から3.1%上昇しており、山田ふれあい文化センターでは2.0%上昇しました。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

他の市保有施設と同程度に老朽化は進行しており、更新・補修に関するコストも必要となりますが、厳しい財政状況が続くことが予測されることから、その財源を確保することが非常に困難となっています。今後は公共施設最適化の動向を踏まえながら必要な更新・維持補修の財源確保を行い、計画的な施設の維持補修を実施することで、施設の長寿命化を図る必要があると認識しています。
また、指定管理者制度の効率的な運用及び受益者負担の適正化を更に推し進めていくことにより、負担すべきトータルコストの適正な管理に努めることが重要であると考えています。